

MDAレポート発行のご案内

2010年1月19日
MDA特性総合研究所

はじめに

MDAレポートは、M. D. A現象を研究し、その発表の場を持つことにより、学問の健全な発達に寄与し、ひいては人類の健康と幸福、平和に貢献することを目的として、平成22年01月19日より、些細なものでありますが私どもの考え方やMDAの取材レポート、ご質問、お客様の声、その他をここに発表して行きたいと思えます。

認識の二面性

私は、科学的な認識の仕方にも二つの方法があると考えています。一つは、対象への観点の置き方、つまり認識の方向と、いま一つは、科学的な測定、計量方法など、さまざまな手段を用いて実証し、認識しようとする事です。

この二つの方法のうち、手段を用いて認識して行くということは、認識活動において当然要求される条件であり問題はありませんが、認識の方向については多くの問題を含んでいるように思われます。

自然の心理には、上と下、左と右、表と裏、あるいは電気のプラスとマイナスというように、必ず二面性を持っています。同じように物の見方、接し方にも二つの方向があり、プラスの見方とマイナスの見方、つまり、ある対象を疑う方向で接するのと、信じる方向で接するという二面性があるわけです。認識の方向に問題があるのは、この二面性によるためです。

私たちがある事実に直面したとき、それに対し“疑問を持つ”か“疑問を持たず、それをそのまま受け入れる”かによって、つまり認識の方向によって、事実なり対象は同じものであっても、

認識の性質は全く違ったものになってくるのです。

未知への挑戦

科学の領域内においてもこのような異なった認識の方向があります。今日一般にいわれている“科学”とは、ニュートン力学の領域に相当するものですが、このほかに、相対性理論に相当する領域もあるわけです。

このように、さまざまな認識活動によって得られた認識、つまり、すでに認識された既知の部分と、まだ認識されていない未知の部分を含むれば、そこに宇宙の真理というものを想定することができます。そしてこの未知の部分、たとえば超常現象的な理解に苦しむようなものであっても、科学は常にその未知の部分に向って、挑戦を試みて行くのです。

過程よりも結果

さて、私どもも未知を追求し解明する者の一員として、この研究所を創立したわけですが、その具体的な研究課題として「M. D. A. 現象」があります。これは「物質とエネルギー、そして意識は、相互関係を持っている。」、ということを確認したうえで、生物（人間）と非生物における環境の内的、外的相互関係の研究を行なって行こうとするものです。

現在、自然科学の分野では、数多くの試験、研究機関やその発表機関があり、それによる成果は、発見、発明として優先権が主張され、特許などによって公に保護されています。私どもも、この先駆者たちの業績を高く評価し、尊重して研究を

続けて行きたいと思います。そして、私どもの基本姿勢としては、なによりもまず「結果」なり「成果」を大切にすること第一義としています。

これまで、「研究」といえば創り出された結果よりも、それに至るまでの過程が重視された感があり、そういう過程における理論が確立されていない結果というものは軽ろんじられた傾向がありました。しかし、私どもは、まず結果を重視することからスタートし、それに至った過程は、厳密な実証によって後から解明し理論づけても良いという、柔軟な姿勢を貫いて行きたいと思います。

何卒、こうした私どもの考え方にご賛同頂き、同好の士が相集い、相助けながら本MDAレポート情報を盛り立てて頂くよう、切にお願い申し上げます。

MDAレポートは皆様のミニコミです。MDA情報に関するご批判、ご意見ご提言、皆様の体験レポート（家庭用、工業用）あるいはご質問など何でも結構です。書欄にて当社までお寄せ下さい。

〒921-8831石川県石川郡野々市町下林4-499-2
丸子電子株式会社
☎ <076>246-6806 FAX <076>248-0103
MDA特性総合研究室 ☎ <076>246-6863
発行人 丸子榮次